

BEN STYLE

第54号
 BenHouse
 編集 尾上大輔
 姫路市南条637
 TEL: 079-222-5500
 www.benhouse.co.jp
 バックNO.は上記WEBで

「膝が、がくがく、千人抜かれ？」

ついに六甲全山縦走、聞きしに勝る壮絶さです。10月の頃、カツパルンパツパのNさんより、お誘いを受けました。「六甲全山縦走いかへん？」「うーそれは行きたいな、一人で行くのも寂しいし、団体で行くならそれもいいかも。」と、早速YESの返事。前には、「あんなイベントに行くやつのが知れん。」と、言ったと思うが、それは時と共に変化する、はい。申込書類を3000円で購入して、緊急の連絡先、事故の場合の自己責任の宣誓書等と共に申込みました。実は大変危険なんですよ。朝の5時に出発して56kmの山道を歩き夜10時までに宝塚へフィニッシュしなければならぬのです。そこから、事故も起こりそうです。「まー覚悟しておいでです。事かしら。」去年、ぎりぎりフィニッシュしたSさん、「大分トレーニングしましたか？」と聞かれ、「はあ、犬の散歩を毎日。」

なめるんじゃない。「と、怒られたそうです。Nさんの呼び掛けで、12名の六甲全山縦走アタックチームが結成されました。男9人女3人名づけて「ハイカーズ(俳句家)六甲全山縦走チーム」です。大ちゃん以外はゼンブ俳句家さんです、何で山登りなんて思いますか、結構変な輩達です。そんな輩が午前3時30分に集合です。チャーター車2台に、各自4千円払って分乗し、いざ須磨浦公園へ。(電車で行くと5時の出発に間に合わないため、Nさんが社員を日当2万円でだまくらかして手配してくれました。ありがたや)4時30分には須磨浦公園到着、もうすでに500人くらいが列を作っています。わが俳句家チームは、新人市会議員のIさんをリーダーに、重屋Nさん、材木屋Sさん、住宅屋Mさん、歯科技工士のMさん、このから先は今日、初めて会う人、



あんまり分からん。スナツク屋Yさん、包材屋Uさん、理化学のダンナ、大学教授Yさんと事務機屋大ちゃん、総勢12人です。いま初めて分かった。人間書いてみると分かるもんだ。あ。メンバ紹介も終わりさ。あ。出発とは行かないんだ。ホルルマラソンのごとく、ヨイドンではスタートできないのです。出発ゲートは2つ有りまして、そこで全員写真付きの参加証を見せて、バーコード付きに通過確認切符を手渡してゲートを通過です。そこで30分はかかりまして、スタートしたのまだ暗い道をヘッドランプをつけてスタートしていきます。まずは鉢伏山です。スタート5分、さつそくメンバの中で最下位に落ちる、大ちゃんは後半勝負型なので、これでいいんです。膝さえ痛くならなければフィニッシュの自信は大有りです。後で抜き返すから先にいつときや。余裕余裕である。景色はというと鉢伏山から見た神戸の夜景？(早朝景)は最高でした。夜明け前の崇高な気分を味わい、また出発です。皆さんに情報、これが最高の撮影ポイントですよ。縦走できなくてもここだけでも値打ちはありますよ。よいカメラを持って行って撮影いたしまししょう。あとは大したことありません。鉢伏山を下ると高倉台の住宅地、以前にハイカーが問

題を起したのかボランテイアの人が、「住宅地なのでお静かに！」のプラカードをもって立っています。その傍らを皆さんもすいすいスピードで走っています。「なんで、ゆっくり行けばいいやん。」住宅地をほの登り口です。ここは一人づつしか通れない階段なので、大渋滞です。「あーなるほど、それで走っていたのか、うーんあなどれない。」渋滞に難渋しながら、やつと須磨アルプスへそこで市議員さんとスナツク屋さん達が後続を待つて休んでいる。ここで、3人バス、と思つたら車やさん他2人も(鉢伏山頂上で景色にかまけていたそう)バス。「これで前を歩くのは6人、ふむふむ山歩きは経験があるのじゃよ。」先は長いので、3人とはお別れして先を進む。せつかく登った須磨アルプスをまた惜しげもなく下ります。住宅地をくねくね曲がって次は高取山へ向かいます。そこへスナツク屋さんが追い越して行きます。女性なのに早い、多分ゴルフで鍛えているのか？平地では大ちゃんどんどん抜かれていきます。実は今までに300人に



